



INDEX

- 暮らすという事について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
千葉県訪問看護ステーション連絡協議会 会長 佐野 袈裟美
- ステーションMAP・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 各ブロックより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3~9
看護協会もばら訪問看護ステーション/初富訪問看護ステーション/
はみんぐ訪問看護ステーション/みやのぎ訪問看護ステーション/
楽天堂訪問看護ステーション/訪問看護ステーションドリーム/
君津訪問看護ステーション/川鉄千葉病院訪問看護ステーション/
- 広報の名前を募集します!!・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 利用者さんの声・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 編集後記/今後の研修予定/広告募集のお知らせ・・・・・・・・・・11

* 投稿用紙を別紙にて用意しました。どうぞご利用ください。



暮らすという事について

千葉県訪問看護ステーション連絡協議会
会長 佐野 袈裟美

今年の桜は、早咲きで、もう既に葉桜の様相を呈しています。
地球が刻々と変化しているのでしょうか。温暖化現象という言葉ばかりで、実際に私たち一人ひとりが暮らしの中でできる事は何でしょうか。

小脳変性症で全盲、下肢を自分の意思で動かすことができない利用者さんがいます。以前、担当看護師の都合で私がお宅にお伺いした時、既に全盲ではありませんでしたが、家の中のレイアウトや物品の管理について看護師やヘルパーに任せきりで、何がどこにあるのか「目が見えなくなってから、判らない。」と言いました。私は「自分の家で自分の物なのに、一生人が知っているからと、生活するのは悲しいですよ。」と言いました。

ステーションに帰って、今から考えると一寸スタッフには酷だったかもしれませんが、3人のスタッフを集め、「その人の暮らしをその人が自由に動いているように、彼女と話し合って室内環境と一緒に考えてきてください。」と夕方に訪問してもらいました。スタッフは本人と相談しながら家庭環境を変えてきてくれました。後日、「訪問を繰り返し実施している間に、彼女の空間だった事をすっかり無視して、看護提供の空間に作っていました。」と話してくれました。

障害があることではっきり「それは困る」と言えない。それは、介護してくれる人との人間関係を悪くしたくないという思いから・・・

何となくいえない関係が良い療養環境でしょうか？

生活している人の生活空間に入っているからこそ訪問看護の面白さがあると考えます。「みんな違う」、からマネジメントが面白いのです。



最近、その利用者さんの便の排泄看護に何ってしています。オムツの交換の時、私は「勿体ない」といって汚れていないオムツの半分をハサミで切って、次回排便する時の下敷に、陰部洗浄を行う時に使えるように小さなダンボールにストックしています。また、陰部洗浄回数が多いので爛れやすく、ペーパーやお尻拭きでは粘膜が炎症を起こしやすいため、ステーション看護師や知人のTシャツを、綺麗に洗濯して10cm大に切って、ストックしています。

『勿体ない』症候群が広がって、ステーションスタッフの家庭不要衣類も有効活用でき、オムツゴミも減りました。

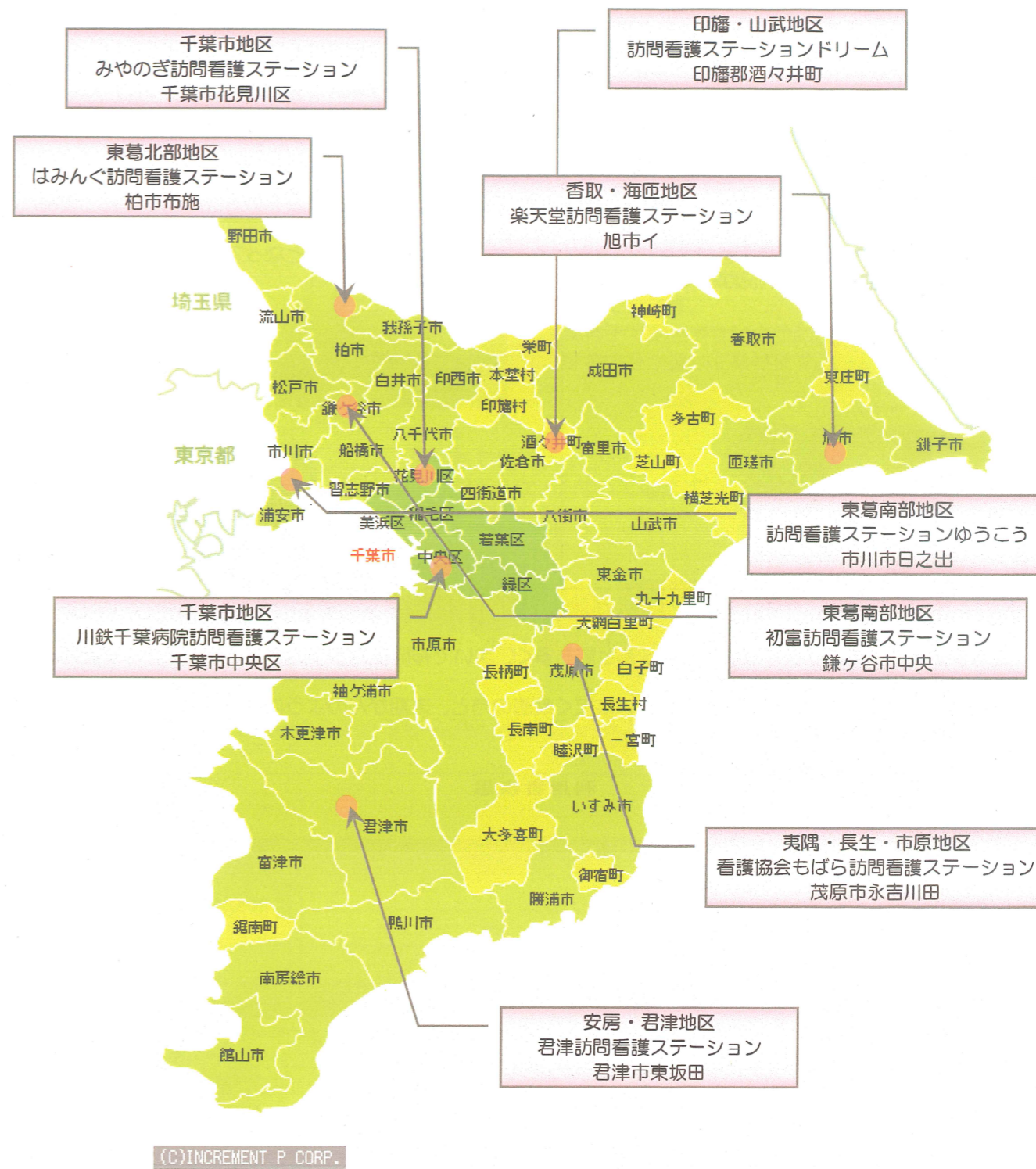
もっと良かったことは、ヘルパーさんや彼女のご主人が「勿体ない」症候群に感染した事です。

小さなことですが、この広報誌に記載する事でもっと「勿体ない症候群」が進み、大きな地球の温暖化防止になれば良いと思います。



■ステーションMAP■

* 今回の広報に記事を投稿して下さったステーションのMAPです。



(C) INCREMENT P. CORP.

夷隅・長生・市原地区

看護協会もばら訪問看護ステーション
岸 光江

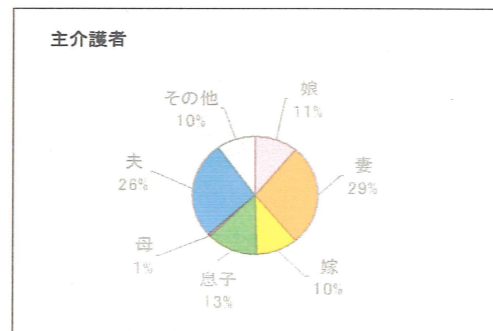
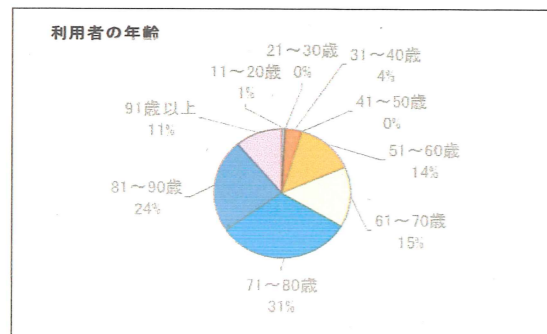
私たちのステーションは、千葉県外房の茂原市にあり、活動範囲として茂原市・長生郡5町村をカバーしています。

市内の中心をはずれると田畑が広がり、農業等への従事者も多い地域です。高齢者が多く、高齢者の二人暮らし世帯や独居老人も多く見られます。そのため、老老介護（年寄りが年寄り介護する状況）が多く、介護保険を利用した地域サービスでなんとか暮らしている・・・といった方、年金暮らしで経済的に余裕がなくて、サービスを入れたくても入れられない・・・といった方もいます。



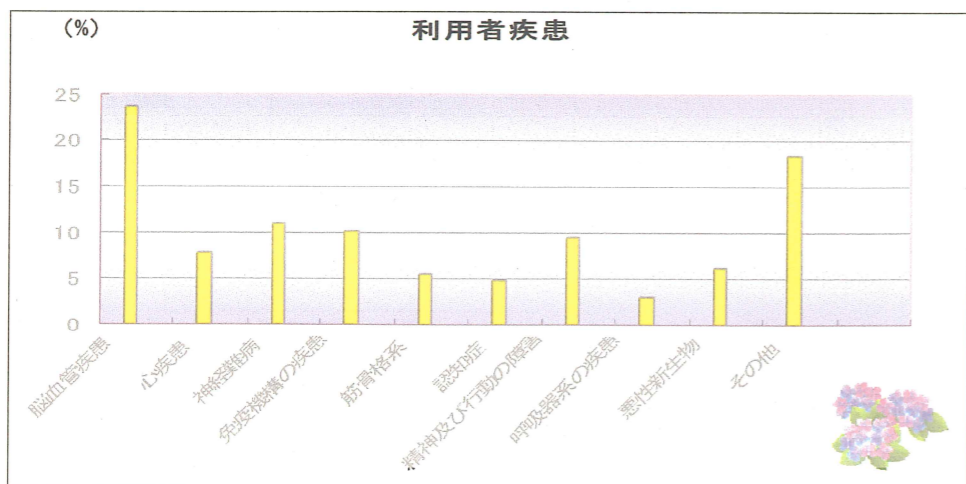
利用者の年齢としては、70歳以上が全体の66%を占めています。70歳以下の方は難病やがん、精神障害のある方が多いです。

利用者介護される方は配偶者が全体の55%、子どもが24%、嫁10%となっています。高齢となった配偶者が介護するという状況が多く見られます。



主な疾患としては、脳血管疾患23.6%と最も多く、次いで神経難病11%となっています。末期がんの方も、近年多くなってきています。

“何年”という長さの期間で関わらせていただく疾患の方と、末期がんのように短い時間に集中的に関わっていく疾患の方がいます。



注：上記疾患区分は、医師の指示書に記載してある病名を元に分類してありますので、実際にはもっと多岐にわたり疾患を併せ持っている方が多いです。

訪問看護業務を行う「訪問看護ステーション」と、ケアマネージャー業務を行う「居宅介護支援事業所」を併設しています。

訪問看護の利用者さん

頑張ってるよ〜!!!
一人で動けるようになりたいから・・・
リハビリの先生も、上達してるって
言ってくれたよ。



スライドボードで
トランスの練習中。
理学療法士と連携を
とりながら進めます。



看護婦さんが
来てくれるのが
楽しみだよ。
何でも
相談しちゃうよ。

いつもお父さんがいてくれて
安心・・・



気管切開していても
お話できます。
車椅子で動きやすいように、
家の中を改造してあります。



棒体操で腕のリハビリです。
30回を3セットやっています。

今、畑から帰ってきたよ・・・
具体はどうだい？
外は風が気持ちよかったよ。



おじいちゃんに
迷惑かけたくないから
がんばってます!!!

東葛南部地区

東葛南部地区研修会報告

初富訪問看護ステーション
池田 育美

去る1月13日(土) 市川市文化会館にて 国立精神・神経センター国府台病院神経内科部長、湯浅龍彦医師を招き「パーキンソン病」についての研修会を開催しました。研修会の講師を受けていただくにあたっては市川ケアクリニックの古野先生からご紹介を頂きました。古野先生は市川市で訪問診療を専門に行なっている神経内科の医師です。神経内科の専門医の講義とあって、当日は訪問看護ステーションに勤務するナース、OT、PTなど60名もの参加があり活気ある研修会となりました。

講義ではパーキンソン病の病態生理や治療の最新情報、薬の使い方などエピソードを加えながら解りやすくお話しをいただきました。質疑応答では時間の都合上4名の方しかお受けできませんでしたが、実践に沿った具体的な質問があり、講師からも丁寧な回答をいただき有意義な研修となりました。

研修会終了後の懇親会では湯浅先生、古野先生を囲み和やかな雰囲気意見交換をする事ができました。両先生共、訪問看護に理解があり、とても気さくな先生でした。

これを機会に、病院と地域との連携やネットワークづくりが広がっていけばと感じました。

香取・海匠地区

はみんぐ訪問看護ステーション 虻川 良子

はみんぐ訪問看護ステーションは柏市の北部に位置しており、近くには、日本三代弁天の1つである布施弁天やあけぼの山公園もあり、歴史と自然豊かな環境の中にあります。

私たちは、「住み慣れた家庭や地域で、安全、安楽に療養できるように」を理念に訪問看護サービスを提供しています。

看護師6名、理学療法士1名のスタッフがおり、訪問リハビリにも力を入れています。看護師と、理学療法士で連携をとり、できるだけ療養者さまのニーズにあったサービスを提供できるように努力しています。

最近では、最後を住み慣れた自宅で過したいとご希望される方が増えてきています。精神的、身体的、社会的な痛みを抱える中で、主治医と連携をとり、ご本人、ご家族の希望、意思を尊重しながら、安心した気持ちで最後の時を迎えられるようお手伝いさせていただきたいと思っております。その経過の中で私たち自身も自分達の看護を振り返り悩む事も少なくありません。

スタッフのケアとして看護協会や日本訪問看護振興財団等の研修会への参加を積極的に行なっています。また亡くなられた後のグリーフケアも行なっており、ご家族から「看護師が来てくれて安心して過ごせました」とお言葉を頂き、そのお言葉をエネルギーに、やりがいを感じています。

在宅での医療が推進される中で、訪問看護に対する役割も高まっています。日々知識や技術の向上に努め、これからの多様なニーズに答えられるように努力していきたくと思います。

千葉市地区

みやのぎ訪問看護ステーション 野本 幸子

訪問看護ステーションの看護師の人材難が言われていますが、私は訪問看護は大変なこともあるけれど基本的には楽しいと思って仕事をしています。しかし、最近知り合いの看護師をしていた人から「訪問看護師だけにはなりたくないなあ」と言われ、そんなにいやな仕事かなとがっかりしました。その理由は、家庭に行く看護の仕事の他にもいろいろな理由ではいけないこともでてきて、きりが無いからという漠然としたイメージでの理由からでした。訪問看護のことは看護師にも知られていないなあと改めて思いました。訪問看護の楽しさも知ってほしいなあと思いました。

ではなんで私が訪問看護を楽しいと思うかという、一つは、いろいろな人生に出会えることのおもしろさが家庭に入るとより感じられるということです。もともと歴史小説が好きなので明治、大正、昭和と生きてきた人の話はとても興味深いものです。セーラー服の女学校時代、ロケット開発の創世記に携わった人、東京大空襲を生き延びた経験、もう私の頭の中は想像がどどんふくらんでいってしまいます。二つめの楽しい理由は、いろんな病気や老いがあっても生活していくということが主体なので、家では自由に過ごすことができるということで、しばしばたくましいご本人、ご家族に出会えるからです。

がんの末期で室内の移動も大変なのに、ある時玄関先に泥に汚れた車椅子が出ていてびっくり。自分で部屋から車椅子を表に出し、バルンを乗けて車椅子を押しながら床屋に行き髪を切ってきた人がいたり、片麻痺で寝たきりですが、もともとお酒が好きで失敗もあつたりした人が、水飲みにお酒を入れてリクライニング車椅子で花見をし、すごくいい顔を見た時、なんともいいような感動を感じるのです。

あげたらきりがありませんが、これからもいろんな出会いや感動をしながら仕事を続けていけたらいいなと思っています。これではほとんど自分のために仕事をしているみたいで、利用者さんには死ぬまでどんな小さな希望でも持ちながら生きていけるよう関わられるようになってほしいなと思っています。どこでも看護の基本は一緒。一緒に働く仲間がふえたらいいなと願っています。

東葛北部地区

楽天堂訪問看護ステーション 角田 裕子

旭市は千葉県の北東部に位置し、南部は九十九里浜に面しています。平成17年7月1日に旭市・海上町・飯岡町・干潟町が合併し現在の旭市となりました。

そんな旭市に事務所を置く当ステーションは、平成17年11月にオープンし、現在看護師4名(非常勤を含む)のスタッフで活動しています。場所は、旭中央病院駐車場の前方に事務所をかまえ、サービス提供地域は旭市・匝瑳市・銚子市となっています。

母体病院を持ちませんが、(楽天堂として訪問看護・介護タクシー・居宅介護支援・福祉用具貸与・施設介護等)を行っておりますので、社内で連携を取りながら今日までやってこられたという状況です。

訪問看護のスタッフは20代~60代と年齢層も幅広く、様々な視点で物事が見られること、何でも意見し合え、かつチームワークが良いところが、当ステーションのセールスポイントです。また、4月からベテラン看護師1名が加わる予定です。

地域の御利用者の期待は大きく、そうした御期待に応える為にも更にスタッフの充実を図ってまいります。

まだまだ若いステーションですが、これからも弊社の理念「共生」手をたずさえて共に生きる……の気持ちを忘れずに日々精進していきたくと思います。



印旛・山武地区

訪問看護ステーションドリーム 渡辺

成田市と佐倉市に挟まれた、ここ酒々井町は、JRと京成の駅が隣接し、新しい住宅と古い町並みが交差しているところです。同居世帯にも関わらず、看護を必要としながら一人で日中を過ごすお年寄りも多く、また、老老介護も多く見受けられます。そうした地域に根ざした安心看護をめざしております。

私達は、地域のホームドクター、ケアマネージャー、介護士との連絡を密にし、お互いの知識を高めながら協力し合い、利用者の立場になって訪問看護にとりくんでいます。

当ステーションは、現在4名のスタッフで活動しております。特徴は、「いつでも電話で看護相談にのります」「必要時は臨時訪問を行います」「在宅ターミナルケアも希望に沿って積極的に行きます」「利用者様の人格を尊重し、どんな方にも、公平・公正な優しい態度で関わります」以上のことをモットーにしています。

最近では、積極的に研修に参加し、情報を得ながら取り組んでおります。



今後もスタッフ一同、レベルアップできるよう、努力していきたくと思います。

「趣味?・・・ストレス解消?」

君津訪問看護ステーション
板倉 裕子

つい先日、新しい年が明けたと思っていたら、アツという間もなく桜の季節になりました。年々時間のたつのが早まっているのは、私の気のせいでしょうか?もしかして、地球温暖化の影響で1日24時間ではなく12時間ぐらいになっていたりしませんか?

君津訪問看護ステーションは平成4年に開設し、15年程何とか頑張って活動を続けております。在宅での医療ニーズも高まってきており、10年前に手探りで始めた人工呼吸器装着者の訪問看護も、現在では対象者も増え、時代の流れを感じる今日この頃です。

忙しい毎日が続き、なかなか協議会活動にも参加できず、自分の訪問看護ステーションの活動が、他のステーションと比較してどうなのか・・・等と客観的に評価する機会もなかなか作れません。ただ、時々接触のある人工呼吸器メーカーの担当者Aさんには(千葉県全域を担当しているらしい)、君津訪問看護ステーションは「ちょっと変わっている」という評価を受けているのです。その理由は、人工呼吸器装着者への訪問看護を「普通のこと」として対応している私達が不思議に見えるとのことでした。

さて、そんな変わったステーションを管理している私の「趣味」を今回はご紹介しましょう。私の自慢のコレクションです。正確には、併設のヘルパーステーションのヘルパー1名と協力して集めたものです。

えっ?何かわからない?皆さんはコンビニに行きますか?コンビニに行くとおもちゃコーナーがあるのをご存じですか?そこに1個200~300円程度する「コレクションフィギア」なるものが時々置いてあるのです。何でも良いというわけではなく、2人で厳選してコレクションアイテムは選択するのですが、箱の中身は開けてみないとわからないので、何種類がある場合、全種類をそろえるまでは結構な投資が必要になるのです。しかしながら、何か出るとワクワクとした楽しみや、全種類そろった時の達成感や満足感を一度味わってしまうと、やめられなくなってしまうのです。

(注:これを世間一般では中毒という)

いずれにせよ集めたものを勝手にステーション事務所に飾って、ニヤニヤしながら自己満足しているのです。周りの人には「所長のビョーキが出た」と言われても、新しいのが出ていないか、コンビニに行くたびにチェックせずにはいられない私がいるのでした。

ストレスの多い毎日に、本人の自覚がなく身体が勝手に反応し、こんな行動を起こすのではないかと自己分析してみました。

あなたも私達のギャラリーに癒されてみませんか?

もしかしたらビョーキが移ってしまう
かもしれませんけれど・・・(〜)



看板猫 パトリシア♪



ステーション開設10年目を迎えて思うこと

川鉄千葉病院訪問看護ステーション
本間 時枝

日々迷うことの多い訪問看護

4月に新設された訪問看護ステーションの管理者として働いています。毎日帰りが遅く、ストレスも大きくなって、いつまで続けられるか心配です。訪問看護婦としてのやりがいや充実感を味わえるほどすばらしい看護もできず、日々迷うことばかり。全国で訪問看護婦として活躍されている方のご意見を伺えたらと思います。

平成10年4月、訪問看護ステーションの管理者となりました。開設当初の悶々とした気持ちを、某雑誌に投稿したときの記事です。この後、五ヵ月目に初めて癌のターミナルの在宅での看取りを経験しました。この時初めて訪問看護のやりがいと充実感を経験し、今では訪問看護こそ天職だと思えるほど、この仕事に生きがいと誇りをもっています。私は外科系の病棟勤務が長く、ターミナルと言えば点滴・酸素吸入・バルン・EKGモニターに囲まれ、全身浮腫で亡くなる患者さんを多く看取りました。

初めて在宅での看取りを経験したのは、8月15日お盆の日でした。呼吸がおかしいと電話を頂き、訪問したときには下顎呼吸で、その後数分後に息を引き取りました。ベッドの周りをご家族が囲んで手を握り、本当に静かな死でした。大学生の孫は「人ってこんな風に死ぬんだ。」と、手を握りしめながら見つめていました。息子さんは、「お盆でおふくろが迎えに来てくれたんだ。後は頼むよ、おふくろ。」と仏壇に手を合わせていました。

主治医と死亡確認を終え玄関を出ると花火大会の日で、夜空に大きな花火が打ち上げられていました。亡くなられたU氏が、一緒に天国に昇って行っているかのように見えました。本当に静かで荘厳な死で、病院での看取りの違いに感動しました。

このケースには後日談がありました。亡くなられたU氏の介護者である長男の妻が、数ヵ月後にご挨拶にいらっしゃいました。「介護の手伝いをしてくれないと恨んでいた夫の兄弟から、『お父さんを家で看取ってくれてありがとう。』と感謝され、長男の妻としての役割を果たせてよかったです。私として心残りなのは、義父に対し病気がらくるものだと看護師から説明され、頭でわかっていても今までの義父とのしがらみがあって、優しくなれない部分がありました。自分が義父にできなかった部分を、ヘルパーになって在宅で介護している方のお手伝いできればと思い、ヘルパーの資格を取りました。」と。訪問看護でしばしば味わう感動ですが、まさに利用者を介護する介護者の成長です。この方は現在もヘルパーとして活躍なさっています。ターミナル期の利用者の入浴介助でお会いする機会があり、認知症もあり大変な利用者のご家族から、自分の気持ちを共感してくれる方が来てくれて嬉しいと歓迎されていました。

癌の告知を受けたE氏は訪問すると壁に「過去を思い悩むことなく今を大切に」と貼ってあり、一日一日を大切に過ごされ自宅で亡くなられました。今でもその方のお家に掛けてあった時計が、当ステーションで時を刻んでいます。思い出にと頂いたのですが、時計を見る毎にE氏の言葉を思い出します。「自分は今までわがままな父親だった。女房にも苦勞をかけたし、これからは子供に優しくいい父親になりたい。」と。一年前に亡くなられた妻の仏前に、毎日きれいなお花が飾ってあり、「こうやって来てくれる看護師さんとの時間を大切にしたい。」と話され、時間を無駄にしてはいけないことや、一日一日を精一杯生きることの大切さをE氏から学びました。

「あの世へ行ったら本間さんのことを見守ってあげるね」と両手を握りしめてくれた98歳のOさん。呼吸リハビリだとケアが終わった後に、最後に必ず十八番だとおっしゃる「島育ち」の歌をレコードをかけて一緒に歌いました。私が奄美大島の生まれだと知って、一緒に歌いましょうと誘われ、音痴な私が一大決心で歌いました。歌っているときのOさんの笑顔は今でも忘れられません。

在宅では、ただリハビリをしましょうといってもやってくれません。脳梗塞で片麻痺の方は社交ダンスが好きだと知った OT が公園まで散歩に行き、一緒に社交ダンスを踊ってリハビリを行い、生き生きしていました。これこそ正に訪問看護の醍醐味です。おじいちゃんと孫のようなお二人が、公園でダンスを踊っている姿はさぞほほえましかったと思います。

訪問看護は利用者と介護者のパワーを逆に頂き、「ありがとう」と感謝され、本当にやりがいのある仕事なのに、全国的に訪問看護に携わる看護師が少ないのはとても残念です。今年から看護協会主催の看護師相互研修で、病院の看護師が訪問看護ステーションに実習に来てくれています。一人でも多くの看護師に訪問看護を理解していただき、願わくば訪問看護に従事してくれればと期待しています。

私が訪問看護を始めたときは、下の子が2歳5ヶ月の時でした。子供を保育園に迎えに行った帰りに緊急電話でそのまま利用者宅へ訪問しました。夏で明るかったので、子供を車に残して訪問して帰る頃には真っ暗になっていました。暗いのと外で犬がほえていて怖かったと、子供が車の中で声を押し殺して泣いていたことがありました。先日管理者の集いで、別の管理者は10ヶ月の子供を連れてエンゼルケアにいったことがあると聞き、みんな子育てしながらがんばっているんだとうれしくなりました。

小学4年の時授業参観に行き、子供が私と訪問カバンをもって出かけている絵が描いてあり、脇に「わたしのゆめは、かんごふさんになってお母さんといっしょにほうもんかんごをすることです。」と書かれていて、涙、涙です。毎日一人で留守番で寂しい思いをさせているのに、親の仕事を理解してくれ、まだまだ先は長いのですが、いつの日にか我が子と必ず訪問看護と一緒にやりたいと今は夢んでいます。

最後に小学6年になった我が子からの母の日の手紙です。私の宝物として持ち歩いています。人生経験豊かな利用者様と子供からエールを頂き、これからもこの仕事に生きがいと誇りをもって精一杯がんばりたいと思っています。

お母さんへ

いつもいつも、お仕事ご苦労様です。
メグは、いつもお仕事頑張っているお母さんに、感謝しています。
これからもメグが信頼できるような、お母さんでいてください。
メグは、お母さんのことを応援しているから、お母さんはお仕事頑張ってね！！
メグは、いつもいつもお仕事を頑張っているお母さんが大好きです！！
お母さん、頑張って！！

平成18年5月14日 母の日



♪利用者さんの声♪

利用者さん：市原 正一 さん



おほほ
(妻)

「胃ろう」のススメ

突然お手紙を差し上げる失礼をお許してください。その訳は、あなた様が「胃ろう」の手術を先生から勧められてお悩みだという事を耳にいたしましたので、「胃ろう」の経験者兼現在も装着している者としての経験をお話し申し上げて、「胃ろう」の効果や経験などが参考になればと思い、お手紙を書く決心をした次第です。

そもそも、私も当初は手術をこばみ、医師を困らせていた1人でした。が、ある時看護師さんの話から、“点滴や少々の食事では現在の体力を保持するのがせいっぱいで、病気の治療にはなんの効果も無い”とわかった時から悩みました。病気に負けているだけの人間、なんの存在感もない、気の弱い人間でしかない自分であると思いました。そしてどうせ生きるならば、半年でも3ヶ月でも元気で、充実感のある人間で終わろうと。それには気力が必要だと。そのためには体力が条件だと。血流やその他様々なエネルギーのおおもととは栄養だと。現状のままだと絶対栄養は不足しており、病気の回復は困難。せっかく生まれた甲斐が無い。どうせ生きるなら、思い切り元気で人間らしく澆刺と活動して「死」を迎えようと決心し、医師の勧め「胃ろう」が早道だと気がついたのです。

そこで、遅ればせながら手術を申し出ました。手術だから少々痛みますが、手術としてはごく軽いものです。その結果、体力も増進。気力も充実・改善され、栄養不良も改善され、1ヶ月程で退院できました。「胃ろう」で栄養を補いつつ、現在にいたっております。2年6ヶ月程になります。

私の経験からいって、若い人生をもう一度元気で活動されるためにも、「胃ろう」をお考えになることをお勧めいたします。前後など不明瞭なところ、独りよがりなところなどありますが、ご参考にさせていただければ幸いです。大変失礼とは存じましたけれど、ご参考ください。尚、私の「胃ろう」の状況をみただければ、お伺いしても差し支えありません。電話番号〇〇〇-△△△-××××です。「胃ろう」のこと」といってください。失礼の程お詫びいたします

利用訪問看護ステーション：訪問看護ステーションゆうこう
浦崎 紀恵子

市原さんのお宅に訪問看護に行ったときのこと。ある利用者さんの話をさせていただいたところ、(もちろん個人情報を守っています)次の訪問の際に、市原さんから一通の手紙を受け取りました。「先日話していた利用者さんに渡してほしい。私の体験が、少しでもその方のお役に立てば・・・」と、2日をかけ、お手紙を書いてくださったのです。

「胃ろう」については様々なご意見があると思いますが、一人の利用者さんの体験としてご紹介させていただきました。

現在、市原さんは、奥様と2人で仲良く在宅療養をされており、活動範囲も広がり、ゆうこうの交流会でも沢山の笑顔を届けてくれています。

広報の名前を募集します！！

千葉県訪問看護ステーション連絡協議会では、広報を年に2回発行しています。毎回皆さんの声を載せてお届けしていますが、『広報』では少し寂しい気もします。そこで、『広報』の名前を募集いたします。可憐で、やさしく、優雅で、時には厳しく、そして美しい・・・私たちを代表する、個性溢れた素敵なネーミングを待っています！！

*締め切りは9月末といたします。FAXでも郵送でも結構です。よろしくお願いたします。

編集後記

訪問看護を始め、11年経過し思う事。
我が家に孫が生まれ1年が経ちました。
近くに住んでいるため成長を見ることが
出来ます。ストレスの多い仕事ですが、孫
に会うたびに顔がほころんでいます。娘が
とても可愛がってくれる家に嫁に行った
のでひと安心です。
皆に助けられ、私ってなんて幸せなんだ
ろうと思っています。



*「そわにえ」・・・フランス語で“親切に世話する人”の意

東京の訪問看護広報の名前は「そわ
にえ」です。千葉も早く可愛い名前が
出来ればいいなあと思います。皆さん
のところにも突然フロッピーが行く
かもしれません。
今後とも、広報にご協力をお願い
いたします。

● 広告募集のお知らせ ●

千葉県訪問看護ステーション連絡協議会
では、広報に掲載する広告を募集してい
ます。基本サイズはA6です。
詳細は広報担当宛に(投稿用紙に記載)
お問い合わせください。

◆ 研修企画予定 ◆

今年度の研修会の予定につきましては、
総会にて話し合いの上決定すること
になっております。
今後の活動の助けになるような、また
相互に研鑽していけるような研修を企画
しましょう。

ヤックスドラッグの在宅医療

住み慣れたわが家で療養していただくため
患者さまにやさしい
在宅医療のおてつだいをしています。

- ☆ くすりを届けてもらいたいとき
- ☆ 在宅で中心静脈栄養 (HPN)、経管栄養 (HEN) を行いたいとき
- ☆ 在宅で疼痛コントロールを行いたいとき

おまかせください お役にたちます !
在宅医療のことなら何でもご相談ください



ヤックス在宅医療薬剤センター (ヤックスドラッグ蘇我薬局)

TEL 043-209-6771 FAX 043-209-6772

〒 260-0842 千葉市中央区南町 2-2-1 月曜日～土曜日 9:00 ~ 18:00

URL www.yacs.jp/home/

E-mail sogadrag@care-yacs.co.jp

- ・ ヤックスドラッグHIT薬局仁戸名店
- ・ ヤックスドラッグ木更津桜井薬局
- ・ フロンティア薬局 (東京都台東区)